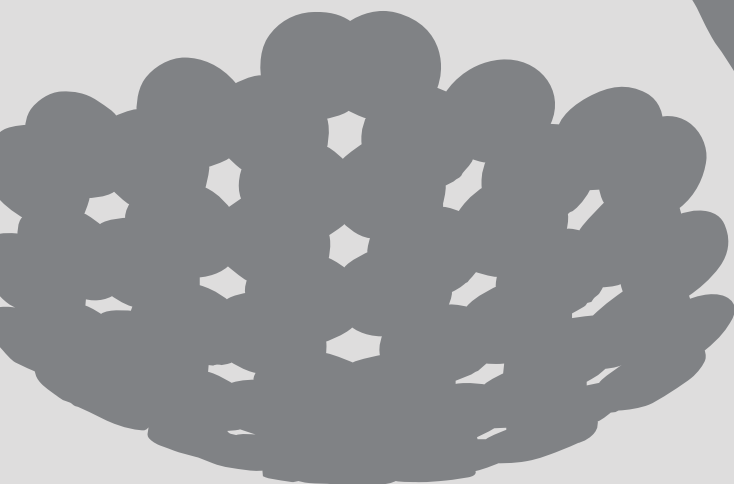


Repetition  
and  
Contingency  
in Crafts and Design

反

復  
と

偶  
然、  
展



ごあいさつ

繰り返すことと、予期せぬこと。どちらも日々のくらしにつきもので、私たちはその連続のなかに生きています。工芸やデザインも、このふたつの要素が複雑に絡み合いながら成立しています。

工芸のわざは長年の修行や鍛練により習得されるものですし、デザインは均質な製品を効率的に量産するために考えだされた技術です。つまり、どちらも反復によって不確定な要素を極力なくそうとする営為です。

その一方で、予測できない要素や偶然性を完全に排除することはできません。ものづくりの場面では、自然の素材、温湿度、火力や熱、力加減などまったく同じ条件や環境はなく、作家自身も仕上がりを完全には予測できないこともあります。しかしその不確かさが逆に作品の魅力や味わいとなり、この人為を超えたたちからに魅了され、あえて偶然性を利用した制作をする作家もいます。

本展は、この反復と偶然というふたつの性質に注目して、国立工芸館の所蔵品をご紹介しますものです。この正反対とも思える性質が工芸やデザインにおいてどのように作用しているのかを考えながら、その魅力を感じていただく機会になれば幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり多大なるご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

令和6年12月

国立工芸館長  
唐澤昌宏

## Foreword

The repetitive and the unexpected—both are part of our daily lives, and we live in a continuum of them. Crafts and design are also composed of complex intertwining of these two elements.

Techniques of crafts are acquired through years of training, while design is a technique conceived for the efficient mass production of homogeneous products. In other words, both are activities that seek to minimize uncertainties through repetition.

On the other hand, unpredictable factors and chance cannot be completely eliminated. In the making of things, no two conditions or environments are exactly the same, such as natural materials, temperature and humidity, fire and heat, and degree of force, and even the artisan him/herself may not be able to fully predict the outcome. However, because such uncertainties sometimes give works charm and appeal, some craftspeople are fascinated by what transcends artifice and dare to make use of contingency in their creations.

Focusing on these two qualities of repetition and chance, this exhibition introduces works from the collection of the National Crafts Museum. We hope that the show will provide an opportunity for visitors to experience the appeal of these seemingly opposite qualities while considering how they work together in crafts and design.

Lastly, we would like to express our sincere appreciation to everyone involved for their generous support in organizing this exhibition.

December 2024

KARASAWA Masahiro, Director

# 1. 反復 繰り返しが生み出す模様とかたち

規則的な動きから生み出されるものや、同じ図柄を連続させたり幾何学模様を施すことは、洋の東西を問わずあらゆる工芸やデザインに見られます。たとえば、竹や糸を編んだり織ったりすることでできるカゴや布地は、規則的な動作を繰り返すことがその造形に直接つながります。型染も同じ図柄のものを複数つくるのに有効で、古来より用いられる技術です。うつわや布地に施された幾何学的な模様は、端正ですっきりした印象と同時にどこまでも続くような空間的な広がりを感じさせます。

また、食器などのセットは、用途の同じものだけでなく違うものも近い形状で揃えることにより統一感が生まれます。規格を揃えることで効率的な制作が可能になるとともに、収納時に重ねられるなど機能性の向上にもつながります。

反復による造形や装飾は、工芸においてももっとも基本的な技術ですが、正確で卓越したわざがあってこそ成立します。デザインにおいても、事前に綿密に計画することで、使いやすく美しいスタイルが完成します。私たちが同じ模様やかたちの繰り返しに安心感や心地よさを感じるのは、人間のなかに根源的にあるリズムに呼応しているからかもしれません。

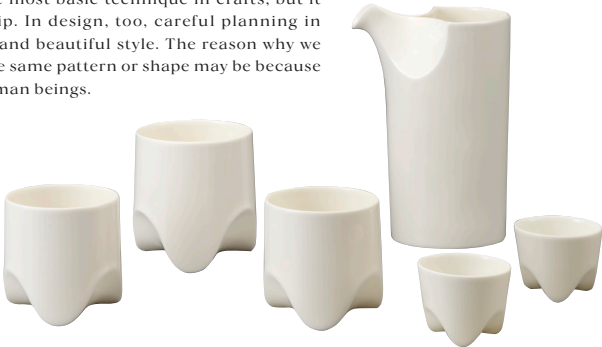
## Repetition: patterns and shapes created by recurrence

Forms based on regular movements, sequences of identical patterns, and geometric shapes can be found in all kinds of crafts and design, both in the West and in the East. For example, the texture of a basket or fabric made by braiding or weaving bamboo or threads is directly produced by repeating regular movements. The stencil dyeing is another technique that has been used since ancient times to create multiple items with the same pattern. Geometric patterns on vessels and fabrics give a neat and clear impression, while at the same time creating a sense of endless spatial expanse.

In a set of tableware, items with different uses can create a sense of unity if they are similar in shape. Aligned standards not only make production more efficient, but also improve functionality by allowing vessels to be stacked for storage.

Repetition in shaping and decoration is the most basic technique in crafts, but it requires precise and outstanding workmanship. In design, too, careful planning in advance is necessary to achieve a user-friendly and beautiful style. The reason why we feel comfortable and at ease with repetition of the same pattern or shape may be because it corresponds to the rhythm fundamental to human beings.

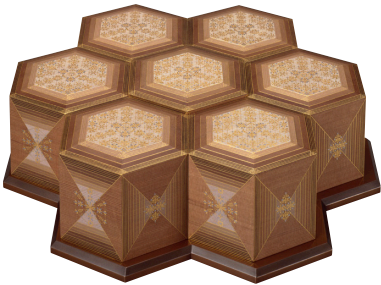
22. 柴木正敏《WAVE》



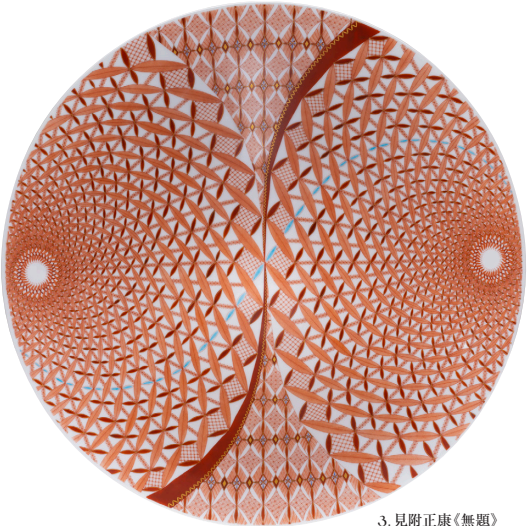
25. 重要無形文化財久留米絣技術保持者会  
《久留米絣白中柄単衣 花菱文》



35. 大坂弘道《菱形木画箱》



4. 江里佐代子《截金六角組飾莚 六花集香》



3. 見附正康《無題》



7. 十二代今泉今右衛門《色鍋島有職文花瓶》





2. 林尚月斎《花編放射文盛器》

中央の節板を中心に放射状に竹を配し、その間を「東ね編み」で編んでいます。東ね編みとは古くは正倉院宝物の籠にみられる技法で、曲げる角度によって重なる竹に抑揚が生まれ、奥行きと躍動感を感じさせます。各所を結ぶ籐も緻密で、連続する模様が花や蝶の様にも見える端正な器です。

林尚月斎(1911-1986)は東京生まれの竹工家。戦後、日本竹芸社を設立して量産的な竹工品も制作し続けました。



9. 石田亘《パート・ド・ヴェール 蓋物 白寿》

パート・ド・ヴェールとは、型に粉ガラスを充填し焼成する技法です。フランス語で「ガラスの練り粉」を意味し、その起源は古代メソポタミアまで遡るといわれています。

石田亘(1938-2023)は大阪府生まれのガラス作家。京都で染織の図案家をしていましたが、この技法に魅せられて研究を重ねました。半透明の柔らかな質感は、粉ガラスが溶解する際に生じた気泡によるものです。型の内側に精緻な線を彫り、粉ガラスを込め、菊華文を浮かび上がらせた優美な作品に仕上げています。

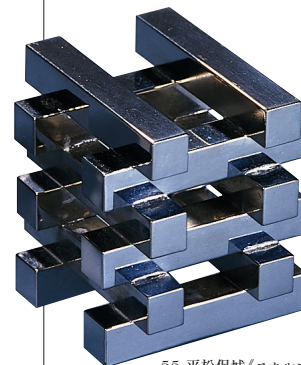
デザインは繰り返す



45. 福田繁雄《モリサワ》



39. 亀倉雄策《ニコン SP》



55. 平松保城《スカルプチャー・ウェイト》



47. エンツォ・マーマー《磁器のデザインO》

ポスターは、商品や催しなどを告知する機能をもっていますが、同じかたちを繰り返すことは注目を集めるための有効な手法です。繰り返すことでリズムが生まれるとともに、見る人の脳は同じものの情報を省略して認識しようとします。しかし、そこにほかに少し違う部分を見つけると、意識はその部分に強く向かいます。まるで“間違い探し”のような視覚の生理的な反応を利用したこの手法は、グラフィック・デザインにひろく用いられています。

物品のデザインでも、あえて同じかたちのパーツだけで構成されたものがあります。制作の効率化という意味合いもありますが、むしろ同じかたちの集積であるからこそ、ちょっとした誤差や歪みに目がとまります。それは、そこに手仕事のぬくもりやユーモアなど「作り手の存在」を感じるからかもしれません。

2. 偶然 自然の素材と人為を超えたちから

工芸のわざは自然や素材を作り手がコントロールすべく発展してきましたが、完全に偶然性を排除することはできません。木や竹など自然の素材は木目や節などまったく同一のものはなく、同じように制作をしてもその風合いは一点一点異なります。また、ガラスや陶芸では火力や熱の加減が造形や色合いに大きく影響しますが、温湿度など条件や環境が少し変わるだけで、その仕上がりは作家自身にも完全には予測できません。薬剤を用いた腐食による金工作品の模様も同様です。

しかし、制御できない偶然の要素をあえて制作にとりこむことで、新しい表現の地平を切り開く作家たちもいます。それらの作品は、一見脆そうだったり、即興的で大胆な造形であったりと、規則性をもった作品にはない儚さや力強さを感じさせます。また、実際は入念に計算してつくられたものでも、「偶然このかたちになったのかも」と思われる作品もあります。これも偶然のもたらし印象を利用した造形のひとつのかたちだといえるでしょう。

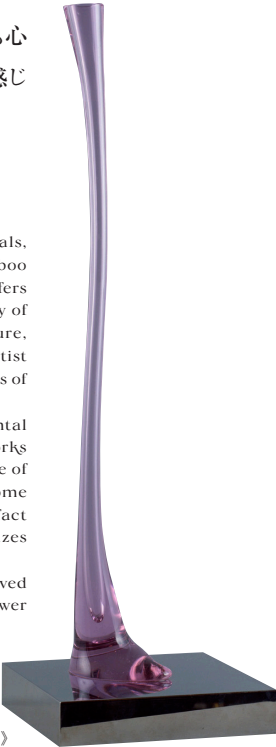
人は予定調和や安定感、効率性を求める一方で、偶然性や不確実性にも心を動かされます。それはそこに人間の意図を超えた大きなちからの存在を感じているからかもしれません。

Contingency: natural materials and forces beyond human power

Although the crafts have evolved to allow the maker to control nature and materials, chance cannot be completely eliminated. Natural materials such as wood and bamboo are not exactly the same in terms of grain and knots, so the texture of each work differs even when created in the same way. In glass art and ceramics, the heat and intensity of the fire greatly affect the shape and hue of the work. Small changes in temperature, humidity, and other environmental conditions can appear in the work, so even the artist himself cannot completely predict the outcome. The same can be said for the patterns of metalwork that uses chemical corrosion.

However, there are also creators who dare to incorporate uncontrollable accidental elements into production, thereby opening up new horizons of expression. Such works may appear fragile at first glance or have bold, improvised forms, giving them a sense of ephemerality and, conversely, a sense of power not found in more regular works. Some works make one wonder if they were created by chance, even though they were in fact created with careful calculation. This is another approach to form making that utilizes the impression created by contingency.

While we seek pre-established harmony, stability, and efficiency, we are also moved by chance and uncertainty. This may be because we feel the presence of a great power there, one that transcends human intentions.



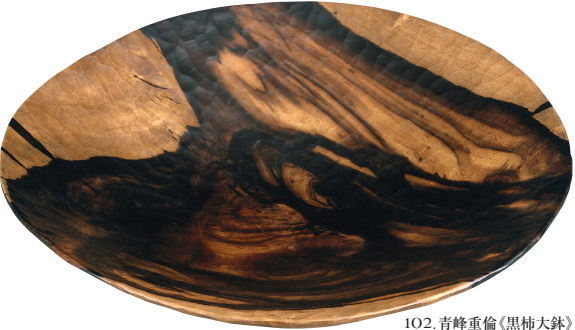
94. 益田芳徳《オブジェ シのびあし》



75. 藤田喬平《流動 流》



73. カルロ・ザウリ《歪められた壺》



102. 青峰重倫《黒柿大鉢》



66. 飯塚琅玕齋《花籃 久寿玉》



71. 西村陽平《トースター》



### 3. 反復 × 偶然 正反対の性質が融合すると…

前章まではどちらか一方の特徴がよく出ている作品を紹介しましたが、実際には工芸やデザインにおいては両方の要素を組み合わせたものがたくさんあります。

規則的な繰り返しの造形や模様の中に不規則な部分を意図的につくことで、そのコントラストが作品の妙味となったり、幾何学模様でも技法によっては再現不能なじみや絶妙なゆらぎをはらんだものになります。また、本来均一な品質の製品を生産するデザインにおいて、あえて偶然できたようなシワを加えることで、量産品らしからぬ存在感が備わることもあります。このように、反復と偶然の要素をたくみに組み合わせることによって生まれる、片方だけでは表現できない複雑な味わいも工芸やデザインの魅力です。

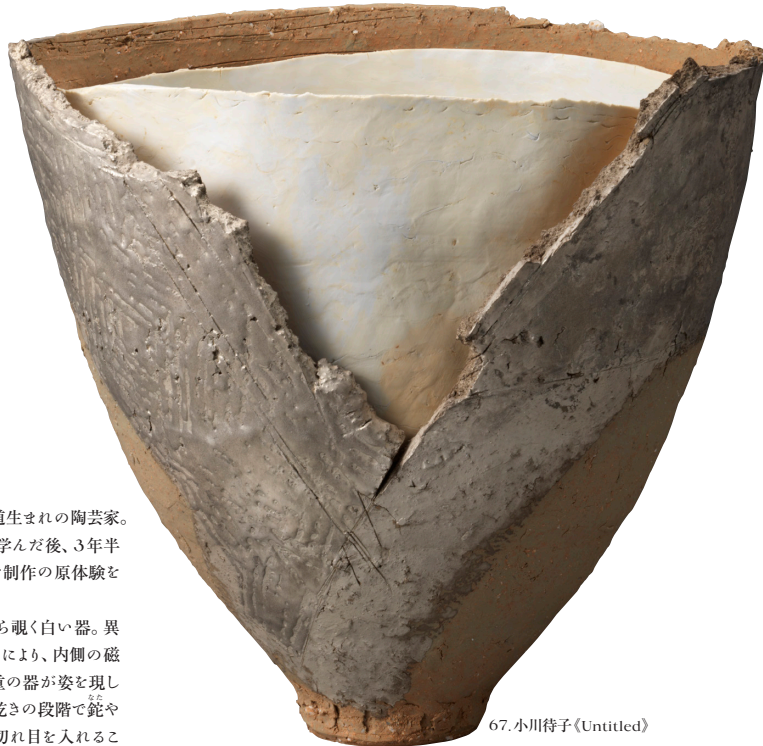
一見同じ模様やかたちの繰り返しでも微妙に異なっていることに気づいたり、逆に偶然のようでも意図的なものかもしれないと考えさせられることがあるように、反復と偶然は正反対の性質のようであり、その境界線はじつはとても曖昧です。この反復と偶然の絶妙なバランスこそが、工芸やデザインを一層魅力的なものにしているのかもしれない。

#### Repetition meets chance: when the opposites merge ...

The previous chapters have introduced works well characterized by one or the other of these two qualities, but there are many examples of crafts and design that combine elements of both.

Intentionally creating irregular areas within repetitions of regular shapes and patterns can create contrasts that give the work its unique flavor. There are also techniques to infuse geometric patterns with unrepeatable blotches and exquisite fluctuations. In designs that aim to produce products of uniform quality, wrinkles appearing to have been created by accident can be added to give presence unlike that of mass-produced goods. The complex flavor that cannot be achieved with a single element alone, created through a clever combination of repetition and contingency, is one of the charms of craft and design.

Even seemingly identical repetitions of patterns and shapes may be noticed as having subtle differences, or, on the contrary, what may seem to be coincidental may be intentional. Repetition and chance seem to be polar opposites, but the boundary between them is actually very blurred. It may be the exquisite balance of repetition and chance that makes crafts and design even more fascinating.



67. 小川待子《Untitled》

小川待子(1946-)は北海道生まれの陶芸家。パリ国立高等工芸学校で学んだ後、3年半を西アフリカで過ごす中で制作の原体験を得ます。

裂けたような切れ目から覗く白い器。異なる素材の収縮率の違いにより、内側の磁器が剥がれることで、二重の器が姿を現しています。制作途中の半乾きの段階で鉋やナイフを使って割れ目や切れ目を入れることで、ひび割れや剥離を意図的に生じさせ、素材の持つ表情や生命力を表そうとしています。収縮と拡散のぎりぎりの均衡のなかから生まれた空間は、均一な陶芸作品には無い魅力を放っています。



95. 畠山耕治《六つの面》



96. 畠山耕治《八つの面》

畠山耕治(1956-)は富山県生まれの金属作家。溶解した金属を型に流し込んで成形する鋳金技法で、箱や筒、鉢状のシンプルな形態を生みだしています。

器の表面の色彩は、薬品や熱などで意図的に化学的变化を起こして施したものです。金属の持つ質感と色彩の混ざり合いが、絶妙なバランスで表されています。また作品の内側に銀箔を貼ることで内と外で異なる景色が広がり、見る人を惹きつけます。



126. 関島寿子《無題 かご (No.396)》

異なる色の土を組み合わせて文様を生み出す練上の技法で作られた大壺。「皗裂文」とは、練上で作った板土を筒状にし、内側から押す力と轆轤の遠心力で膨らませていく際に、あらかじめ櫛などでつけた細かな傷が広がってできた亀裂による模様のことです。乾燥や焼成の過程で割れることも多く、高度な技術が求められます。作者の意図とそれを超える自然の力が融合して、独特の色彩と質感になっています。

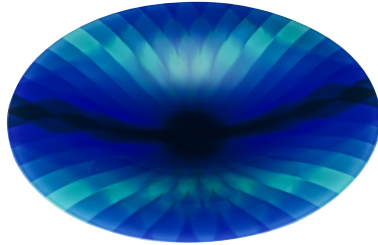
松井康成(1927–2003)は長野県生まれの陶芸家。練上手技法の研究・制作に専心し、「象裂」「破調」など彩りあふれる斬新な美の世界を展開させました。



116. 松井康成《練上皗裂文大壺》



107. 生田丹代子《揺-39》



105. 三代徳田八十吉《耀彩鉢 連菱》



119. 小松誠《Crinkle Series スーパーバッグ K1, K2, K3》



108. 飯塚琅玕齋《花籃 あんこう》

## Work descriptions

### 2. HAYASHI Shogetsusai, Tray, *hana-ami* (weave)

Bamboo rods are arranged in a radial pattern around the central joint plate and woven between the rods using a *tabane-ami* (lit. bundle weave) technique. This technique is seen in baskets of the Shosoin treasures in ancient times. Depending on the angle of the bend, the overlapping bamboo creates a sense of modulation, giving them depth and dynamism. Rattan meticulously connects each part, and the continuous patterns of this elegant tray look like flowers or butterflies.

Tokyo-born bamboo craftsman HAYASHI Shogetsusai (1911–1986) also produced high-volume crafts after World War II when he founded Nippon-Chikugai-Sha (Japan Bamboo Co.).

### 9. ISHIDA Wataru, Covered container, “White Age (Age 99)”, *pâte de verre*

*Pâte de verre* is a technique in which a mold is filled with glass powder and fired. Its name is French for “paste of glass,” and its origins are said to date back to ancient Mesopotamia.

ISHIDA Wataru (1938–2023), a glass artist born in Osaka Prefecture, was a designer of dyed fabrics in Kyoto, but became fascinated by this technique and pursued his research. The soft translucent texture is due to air bubbles created when the glass powder is melted. This graceful vessel features exquisite lines carved into the inside of a mold, and glass paste that brings out chrysanthemum patterns.

### Repetitions in Design

In posters that announce products or events, repeating the same shape is an effective way to attract attention. While repetition creates rhythm, the viewer’s brain tries to recognize it by omitting the redundant information. However, when their brain detects something slightly different, his/her attention is strongly drawn to that part. This “spot-the-differences” approach, which takes advantage of the physiological response of vision, is widely used in graphic design.

In the design of goods, there are cases where only parts of the same shape are used. One of the goals is to improve production efficiency, but because it is a collection of identical shapes, small errors and distortions are more noticeable. This may be because the warmth of handwork and humor make us feel the presence of the creator.

### 67. OGAWA Machiko, Untitled

Hokkaido-born ceramic artist OGAWA Machiko (b. 1946) studied at l’École Nationale supérieure des Arts Appliqués et des Méiers d’Art in Paris, and then spent three and a half years in West Africa, where she gained her original experience in creation.

A white vessel peeks out from a seemingly ripped opening. The different shrinkage rates of the materials caused the inner porcelain to peel away, revealing a two-layered vessel. During the semi-drying stage of the production process, the artist intentionally creates cracks and peelings on the surface by cutting with a hatchet and a knife to highlight the texture and vitality of the material. The space created by the critical balance between contraction and diffusion radiates a charm not found in uniform ceramics.

### 95. HATAKEYAMA Koji, Six Faces

### 96. HATAKEYAMA Koji, Eight Faces

Toyama-born metalworker HATAKEYAMA Koji (b. 1956) uses the cast metal technique, in which molten metal is poured into a mold and formed, to create simple forms of boxes, cylinders and bowls.

The colors on the surface of the vessels are produced through the intentional use of chemical changes caused by chemicals and heat. The mixture of metal textures and colors is expressed in superb balance. The inside of the work is lined with silver leaf, creating different views of the inside and outside of the work that attracts the viewer.

### 116. MATSUI Kosei, Large jar, layer pattern, *neriage*

This large jar is made using the *neriage* technique, in which different colored clay is combined to produce patterns. The clayboard prepared using the *neriage* technique is made into a cylindrical shape and scratched finely with a comb, which is then inflated by the force of pressing from the inside and the centrifugal force of the potter’s wheel. The *shoretzu* is a pattern formed by the spreading of these fine scratches. This technique requires a high level of skill, as the vessel often breaks during the drying and firing processes. The artist’s intentions and the natural forces that transcend them merge to create unique colors and textures.

Nagano-born ceramist MATSUI Kosei (1927–2003) devoted himself to the research and production of the *neriage* technique and developed a colorful and innovative world of beauty.



＊作品はすべて国立工芸館の所蔵です。  
＊都合により出品作品および陳列順が一部変更となる場合があります。

No.	作家名 Artist	作品名 Title	制作年 Date	素材・技法 Material, technique
1. 反復 繰り返しが生みだす模様とかたち				
Repetition: patterns and shapes created by recurrence				
1	新里明士 NIISATO Akio	光器 Bowl, a luminescent vessel	2022	磁器 porcelain
2	林尚月斎 HAYASHI Shungetsusai	花編放射文盛器 Tray, hana-ami (weave)	c.1947	竹 bamboo
3	見附正康 MITSUKE Masayasu	無題 Untitled	2019	磁土、上絵付、金彩、九谷焼、赤絵細描 porcelain, overglaze painting, gold, Kutani porcelain, overglaze red enamel
4	江里佐代子 ERI Sayoko	截金六角組飾箱 六花集香 Clustered hexagonal boxes, kirikane, "Rokkka-shuho (six flowers gathering their fragrance)"	1992	木、金属箔、截金 wood, metal foil, kirikane
5	北大路魯山人 KITAOJI Rosanjin	色絵金欄手蓋物 Covered bowls, gold leaves on overglaze enamels	c.1940	磁器 porcelain
6	色鍋島技術保存会 Group of Important Intangible Cultural Properties / Iro-Nabeshima	色鍋島唐花文花器 Vase, floral pattern, overglaze enamels, Nabeshima ware	1972	磁器 porcelain
7	十二代今泉右衞門 IMAZUMI Imaemon XII	色鍋島有職文花瓶 Vase, yusoku pattern, Nabeshima ware	1966	磁器 porcelain
8	ジャン・デュナン Jean DUNAND	球形花瓶(金、赤) Spherical vase in gold and red	c.1925	銅合金、色漆、鍛造 copper alloy, colored lacquer, hammering
9	石田亘 ISHIDA Wataru	バート・ド・ヴェール蓋物 白寿 Covered container, "White Age (Age 99)", pâte de verre	2000	ガラス glass, pâte de verre
10	ユッタ・ジカ Jutta SIRA	ティー・コーヒー セット Tea and coffee set	c.1901-02	磁器 porcelain
11	ボディル・マンツ Bodil MANZ	シリンダーNo.5 Cylinder No.5	2003	磁土、焼込 porcelain
12	ボディル・マンツ Bodil MANZ	シリンダーNo.5 Cylinder No.5	2004	磁土、焼込 porcelain
13	小田洋晴 ODA Hiroharu	ガラス・ボール ヴァリエーション Glass bowl, "Variation"	1978	ガラス、宙吹き、焼造 glass, blowing
14	ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト Wilhelm WAGENFELD	容器 キュープ Vessel, "Kubus"	1938	ガラス glass
15	クリストファー・ドレッサー Christopher DRESSER	ティー・セット Tea set	1860	金属、黒檀、銀メッキ metal, ebony, silver plated
16	クリストファー・ドレッサー Christopher DRESSER	トースト・ラック(家型) Toast rack	c.1876-90	金属、銀メッキ metal, silver plated
17	クリストファー・ドレッサー Christopher DRESSER	トースト・ラック(棚型) Toast rack	c.1876	金属、銀メッキ metal, silver plated
18	クリストファー・ドレッサー Christopher DRESSER	トースト・ラック(六角型) Toast rack	c.1879-80	金属、銀メッキ metal, silver plated
19	森正洋 MORI Masahiro	ロックセット Whisky set	1978	磁器 porcelain
20	森正洋 MORI Masahiro	パーティートレイ セラベスク Party tray, "Cerabesque"	1994	磁器 porcelain
21	森正洋 MORI Masahiro	O型パーティートレイ O-type party tray	1984	磁器 porcelain
22	栄木正敏 SAKAEGI Masatoshi	WAVE Wave	1966-67	アイボリー磁器 ivory porcelain
23	城谷耕生 SHIROTANI Kosei	Carrara フリースタンド Carrara free stand	2006	磁器 porcelain
24	城谷耕生 SHIROTANI Kosei	Carrara プレート、フルーツボウル、ペーパーウェイト Carrara plate, fruits bowl, paper weight	2006	磁器 porcelain
25	重要無形文化財久留米絣技術保持者会 Group of Important Intangible Cultural Properties / Kurume-kasuri	久留米絣白中柄単衣 花菱文 Kimono, Kurume-kasuri cotton, flower and diamond pattern	1958	綿、絣 cotton, kasuri ikat
26	芹沢銈介 SERIZAWA Keisuke	笥文茶地麻部屋着 Dressing gown, bamboo shoot motif on brown ground, hemp	1958	麻、型染 hemp, stencil dyeing
27	生野祥雲斎 SHONO Shounsai	無双編竹盛器 Basket, muso-ami (weave)	1965	竹 bamboo
28	富樫光成 TOGASHI Kosei	堆漆縞文小箱 Small box, stripe design, tsuishitsu	1957	漆、堆漆 lacquer, tsuishitsu

29	伊賀三景 IGA Sankei	彩漆海苔文箱 Box, colored lacquer and kikka	1967	漆、海苔 lacquer, kikka
30	稲垣稔次郎 INAGAKI Toshijiro	紙本型絵染額面 都をどり Miyako-odori (Kyoto dance show), stencil dying on paper	1958	紙、型染 paper, stencil dyeing
31	中川衛 NAKAGAWA Mamoru	象嵌鑑銀花器「チェックと市松」 Vase, inlaid checker patterns, rogin	2020	鑑銀、鋳造、象嵌 rogin (copper alloy with silver), casting, inlay
32	中村富栄 NAKAMURA Tomie	手付三寸角重箱 A nest of small boxes with handle	1961	漆 lacquer
33	齋田梅亭 SAITA Baitei	截金葉華文小筥 Small box, rape-flower design, kirikane	1963	木、金属箔、截金 wood, metal foil, kirikane
34	秋山逸生 AKIYAMA Issei	黒檀烏文飾箱 Hexagonal box, bird design, inlay on ebony wood	1964	木(黒檀)、象嵌 wood (ebony wood), inlay
35	大坂弘道 OSAKA Hiromichi	菱形木画箱 Marquetry box with diamond-shaped pattern	1979	木(紫檀、黒柿、桑、黄楊木)、木画 wood (rosewood, persimmon wood, malberry wood, boxwood), marquetry
36	宗廣力三 MUNEHIRO Rikizo	節絹織着物 花心 Kimono, "Heart of Flower", fushiginu (silk reeled off twin cocoon)	1979	絹、織 silk, weaving

デザインは繰り返す Repetitions in Design

37	亀倉雄策 KAMEKURA Yusaku	Life Life	1994	シルクスクリーン silkscreen
38	亀倉雄策 KAMEKURA Yusaku	第10回東京国際照明デザインコンペティション '83入賞作品展 '83 The 10th Tokyo International Lighting Design Competition	1983	オフセット offset
39	亀倉雄策 KAMEKURA Yusaku	ニコン SP Nikon SP	1957 (1990 reprint)	オフセット offset
40	亀倉雄策 KAMEKURA Yusaku	第3回照明・建築セミナー／ポール・マランツ、磯崎新 The 3rd Seminar of Light & Architecture Paul Marantz and Arata Isozaki	1986	オフセット offset
41	亀倉雄策 KAMEKURA Yusaku	Design Forum '87 Design Forum '87	1987	オフセット offset
42	福田繁雄 FUKUDA Shigeo	UCC コーヒー館（つくば科学万博'85） UCC Coffee Pavillion at Tsukuba Science Expo '85	1984	オフセット offset
43	福田繁雄 FUKUDA Shigeo	Shigeo Fukuda Exhibition Shigeo Fukuda Exhibition	1975 (1987 reprint)	シルクスクリーン silkscreen
44	福田繁雄 FUKUDA Shigeo	福田繁雄のポスター展 Shigeo Fukuda Poster Exhibition	1988	シルクスクリーン silkscreen
45	福田繁雄 FUKUDA Shigeo	モリサワ Morisawa	1993	オフセット offset
46	福田繁雄 FUKUDA Shigeo	Fukuda C'est Fou Shigeo Fukuda Exhibition: Fukuda C'est Fou	1991	シルクスクリーン silkscreen
47-54	エンツォ・マリー Enzo MARI	磁器のデザイン (8点) Design for porcelain (8 pieces)	1973	磁器 porcelain
53-62	平松保城 HIRAMATSU Yasuki	スカルプチャー・ウエイト (8点) Sculpture Weight (8 pieces)	1973	真鍮、ロジウムメッキ brass, rhodium coating
63	トーネ・ヴィーグラン Tone VIGELAND	ブレスレット Bracelet	1989	鉄、銀 iron, silver
64	トーネ・ヴィーグラン Tone VIGELAND	腕輪 No.2 Bracelet No.2	1991	銀 silver

2. 偶然 自然の素材と人為を超えたちから

Contingency: natural materials and forces beyond human power

65	三橋國民 MITSUBASHI Kunitami	不死鳥像 Phoenix	1971	鉄、鍛造、ガス溶接 iron, forging, gas welding
66	飯塚琅玕齋 IIZUKA Rokansai	花籃 久寿玉 Flower basket, "Kusudama (ornamental scent bag)"	c.1950-54	竹 bamboo
67	小川待子 OGAWA Machiko	Untitled Untitled	1993	陶土、磁土 stoneware, porcelain
68	小川待子 OGAWA Machiko	無題 Untitled	2008	陶器 stoneware
69	伊勢崎淳 ISEZAKI Jun	風雪 Wind and Snow	2015	陶器 stoneware
70	大村俊二 OMURA Syunji	流 (Ryu) IX Ryu IX	2001	ガラス、宙吹き glass, blowing

展示室2  
Gallery 2



71	西村陽平 NISHIMURA Yohei	トースター Toaster	1966	陶土、釉薬、鉄 clay, glaze, iron
72	荒木高子 ARAKI Takako	Pocket Bible Puchet Bible	2000	磁土、シルクスクリーン porcelain, silkscreen
73	カルロ・ザウリ Carlo ZAULI	歪められた壺 Vase	1976	陶器 stoneware
74	コリン・リード Colin REID	無題 Untitled	1987	ガラス、蠟型鋳造 glass, lost-wax casting
75	藤田喬平 FUJITA Kyohei	流動 流 Flowing Nagare-Flow	1967	ガラス、宙吹き glass, blowing
76	岩田藤七 IWATA Toshichi	貝 Shell	1962	ガラス、宙吹き glass, blowing
77	森陶岳 MORI Tokaku	備前広口砂壺 Jor, gritty clays, Bizen ware	1969	陶器 stoneware
78	金重陶陽 KANESHIGE Toyo	備前大鉢 Large bowl, Bizen ware	1957	陶器 stoneware
79	藤原建 FUJWARA Ken	備前緋摩壺 Jar with fire marks, Bizen ware	1964	陶器 stoneware
80	二代宮川香山 MIYAGAWA Kozan II	窯変洋紅釉花瓶 Vase, red glaze, yohen type	1926	磁器 porcelain
81	森野嘉光 MORINO Kaku	緑釉窯変扁壺 Vase, green glaze, yohen type	1966	磁器 porcelain
82	高鶴元 KOHZURU H. Gen	手びねり徳利、ぐい呑 Sake bottle and cups, coiling	1999	陶器 stoneware
83	辻清明 TSUJI Seimei	硝子缶型花生 Glass vase in the shape of can	1991	ガラス、宙吹き glass, blowing
84	三代宮田藍堂(宏平) MIYATA Rando III (Kohei)	蠟型鍍金装身具 感懐 Brooch, "Reverie", gold, lost-wax casting	1977	金、蠟型鋳造 gold, lost-wax casting
85	三代宮田藍堂(宏平) MIYATA Rando III (Kohei)	蠟型鍍金装身具 伝承 Ring, "Lore", gold, lost-wax casting	1977	金、蠟型鋳造 gold, lost-wax casting
86	三代宮田藍堂(宏平) MIYATA Rando III (Kohei)	蠟型鍍金装身具 花の宴 Ring, "Springtide", gold, lost-wax casting	1977	金、蠟型鋳造 gold, lost-wax casting
87	松江美枝子 MATSUE Mieko	銀ブローチ(金棒付) Brooch, silver	1976	銀 silver
88	松江美枝子 MATSUE Mieko	銀ブローチ Brooch, silver	1976	銀 silver
89	松江美枝子 MATSUE Mieko	銀ペンダント Pendant, silver	1980	銀 silver
90	赤地友哉 AKAJI Yusai	木地糸目旅簍 Traveling tea caddy with turning trails	1962	木(柶)、挽物 wood (zelkova wood), turning
91	氷見晃堂 HIMI Kodo	唐松砂磨茶箱 Box for tea utensils, sand-polished, Japanese larch	1964	木(唐松)、指物 wood (Japanese larch), joining
92	田辺陽太 TANABE Yota	大地に根ざす Rooting in the Earth	1976	竹 bamboo
93	宮崎珠太郎 MIYAZAKI Shutaro	あかりのかご Bamboo lamp shade	1962	竹 bamboo
94	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	オブジェ し の び あ し Object, "Stealthy Step"	1977	ガラス、宙吹き glass, blowing
95	畠山耕治 HATAKEYAMA Koji	六つの面 Six Faces	2010	青銅鋳造、焼色、銀箔 bronze, casting
96	畠山耕治 HATAKEYAMA Koji	八つの面 Eight Faces	2010	青銅鋳造、焼色、銀箔 bronze, casting
97	辻清明 TSUJI Seimei	信楽大合子 天心 Large case, "Tenshin", shigaraki type	1970	陶器 stoneware
98	ルース・ダックワース Ruth DUCKWORTH	作品 Work	1964	陶器 stoneware
99	伊村俊見 IMURA Toshimi	延 O3-3 Growing O3-3	2003	陶、手びねり stoneware
100	三代宮田藍堂(宏平) MIYATA Rando III (Kohei)	伝統 Tradition	1967	アルミニウム、鋳造(発泡スチロールの型による) aluminum, casting
101	有岡良益 ARIOKA Ryoei	肥松節李三脚盤 Compote, koematsu (pine wood)	1987	木(肥松)、挽物 wood (pine wood), turning
102	青峰重倫 AOMINE Shigemichi	黒柿大鉢 wood (black persimmon wood)	1985	木(黒柿)、削物 wood (black persimmon wood), scooping
103	岩田藤七 IWATA Toshichi	三本の足で歩くもの A Thing That Walks on Three Legs	1971	ガラス、宙吹き glass, blowing

### 3. 反復 × 偶然 正反対の性質が融合すると…

Repetition meets chance: when the opposites merge ...

展示室 3  
Gallery 3

104	中島晴美 NAKASHIMA Harumi	WORK-O6O2 WORK-O6O2	2006	磁器 porcelain
105	三代徳田八十吉 TOKUDA Yasokichi III	爆彩鉢 連菱 Bowl, "Linked Diamond", overglaze enamels	1993	磁器 porcelain
106	草間喆雄 KUSAMA Tetsuo	The Flow The Flow	2013	レーヨン糸、プラスチック rayon, plastics
107	生田丹代子 IKUTA Niyoko	揺-39 Swing-39	1992	板ガラス、接着 laminated glass
108	飯塚琅疋齋 HIZUKA Rokansai	花籃 あんこう Flower basket, "Anko (angler fish)"	1957	竹 bamboo
109	鈴木治 SUZUKI Osamu	フタツの箱 Two Boxes	1964	陶器 stoneware
110	富本憲吉 TOMIMOTO Kenkichi	色絵染付菱小格子文長手箱 Long, narrow ornamental box, lattice pattern, underglaze blue and overglaze enamels	1941	磁器 porcelain
111	山田光 YAMADA Hikaru	陶面の中の凸面 Convexes in a Clay Plane	1976	陶器 stoneware
112	池田晃将 IKEDA Terumasa	Error403 Error403	2020	漆、木曽檜、螺鈿、蒔絵 lacquer, abalone, raden inlay, maki-e
113	富本憲吉 TOMIMOTO Kenkichi	染付色絵醬油注(3種) Soy sauce jugs, underglaze blue and overglaze enamels	c.1954-56	磁器 porcelain
114	栄本正敏 SAKAEGI Masatoshi	手描きの食器 Hand-drawn tableware	1971	半磁器 semiporcelain
115	栄本正敏 SAKAEGI Masatoshi	CLAY WAVE Clay Wave	1967	陶器 stoneware
116	松井康成 MATSUI Kosci	練上曜裂文大壺 Large jar, layer pattern, neriage	1979	陶器 stoneware
117	小松誠 KOMATSU Makoto	Crinkle Series outline Crinkle Series, outline	1979	ステンレスワイヤー stainless wire
118	小松誠 KOMATSU Makoto	Crinkle Series metal Crinkle Series, metal	1979	アルミニウム aluminum
119	小松誠 KOMATSU Makoto	Crinkle Series スーパーバッグ K1, K2, K3 Crinkle Series, superbag K1, K2, K3	1975	磁器 porcelain
120	小松誠 KOMATSU Makoto	Crumple Series タンブラー、ワイングラス Crumple Series, tumblers and wineglasses	1960	ガラス glass
121	小松誠 KOMATSU Makoto	Crinkle Series プレート、箸置き Crinkle Series, plates, chopstick rests	1963	磁器 porcelain
122	クリストファー・ドレッサー Christopher DRESSER	プロペラ瓶(淡緑カラー・ガラス) Vase with propeller body of pale green tint	c.1890	ガラス glass
123	クリストファー・ドレッサー Christopher DRESSER	植物・虫模様線刻ティーセット Tea set	1879	真鍮、錫メッキ brass, tin plated
124	ハンス・コパー Hans COPER	キクラデス・フォーム Cycladic Arrow Form	1972	陶器 stoneware
125	ハンス・コパー Hans COPER	洋梨形台付花瓶 Vase with pyriform base	1964	陶器 stoneware
126	関島寿子 SEKIJIMA Hisako	無題 かご (No.396) A basket (No.396), Untitled	1994	桑、編み mulberry bark, weaving
127	音丸寛 OTOMARU Hiroshi	彫漆麦の図飾箱 Ornamental box, wheat design, choshitsu	1967	漆、彫漆 lacquer, choshitsu
128	音丸寛 OTOMARU Hiroshi	彫漆麦穂文飾箱 Ornamental box, wheat design, choshitsu	1966	漆、彫漆 lacquer, choshitsu
129	音丸耕堂 OTOMARU Kodo	彫漆銀連糸茶入 Tea caddy, silver line inlay, choshitsu	1963	漆、彫漆 lacquer, choshitsu
130	岩田久利 IWATA Hisatoshi	黒紫二色花文鉢 Glass bowl, floral pattern in two colors	1976	ガラス、宙吹き glass, blowing
131	島岡達三 SHIMAOKA Tatsuzo	塩釉象嵌縄文大皿 Large dish, rope impressed inlay pattern, salt glaze	1966	陶器 stoneware
132	清水九兵衛(洋、希洞、七代六兵衛) KIYOMIZU Kyubei (Hiroshi, Rokubei VII)	截土容黒釉一輪挿 Vase, cut clay form, black glaze	1996	陶器 stoneware
133	清水九兵衛(洋、希洞、七代六兵衛) KIYOMIZU Kyubei (Hiroshi, Rokubei VII)	花陶容(30) Flower vase (30)	1987	陶器 stoneware
134	清水九兵衛(洋、希洞、七代六兵衛) KIYOMIZU Kyubei (Hiroshi, Rokubei VII)	花器 Vase	1955	陶器 stoneware

## 反復と偶然展

[展覧会]

2024年12月17日(火)～2025年2月24日(月・休)

主催・会場

国立工芸館

企画・構成

三木敬介

会場設営

ヨシダ宣伝株式会社

輸送・展示

日本通運株式会社

[リーフレット]

執筆

三木敬介、田中真希代

編集

三木敬介、田中真希代、相川加織

翻訳

山本仁志

デザイン

廣田萌(文京図案室)

印刷

株式会社 歩プロセス

[フォトクレジット]

No.2,22,47,67,107,126

エス・アンド・ティ フォト

No.3,66

野村知也

No.4

大堀一彦

No.7

米田太三郎

No.9,33,71,73,75,93,96,103,116,119

アローアートワークス

No.94

藤川清

No.108

大屋孝雄

発行

国立工芸館

発行日

2024年12月17日

©2024 国立工芸館

本書の全部または一部を無断で転載・複製することを禁じます。

[MOMAT 支援オークル]

株式会社木下グループ、ラグジュアリーカード、

株式会社三井住友銀行、三菱商事株式会社、大日本印刷株式会社、

アバントグループ、株式会社オオバ、日本電子株式会社

## Repetition and Contingency in Crafts and Design

[Exhibition]

Period

December 17, 2024-February 24, 2025

Organizer/Venue

National Crafts Museum

Curation

MIKI Keisuke

Venue Setup

YOSHIDA SENDEN CO., LTD.

Transport and Installation

NIPPON EXPRESS CO., LTD.

[Leaflet]

Text by

MIKI Keisuke, TANAKA Makiyo

Edited by

MIKI Keisuke, TANAKA Makiyo, AIKAWA Kaori

Translated by

YAMAMOTO Hitoshi

Designed by

HIROTA Moe (Bunkyo-zuan-shitsu)

Printed by

ayumi process ltd.

Published by

National Crafts Museum

Published on

December 17, 2024

[Photo credit]

No.2,22,47,67,107,126

S&T PHOTO

No.3,66

NOMURA Tomoya

No.4

OHORI Kazuhiko

No.7

YONEDA Tasaburo

No.9,33,71,73,75,93,96,103,116,119

Arrow Art Works

No.94

FUJIWARA Kiyoshi

No.108

OYA Takao

©2024 National Crafts Museum

All rights reserved.

Printed in Japan

[MOMAT Corporate Partnership]

Kinoshita Group Co., Ltd. / LUXURY CARD /

Sumitomo Mitsui Banking Corporation /

Mitsubishi Corporation / Dai Nippon Printing Co., Ltd. (DNP) /

AVANT Group / OHBA & CO. / JEOL Ltd.